

四月鹿ノ台川柳教室誌上句会 優秀句

お題「咲く」 水間 充選

どうせ散る知つてゐるのに咲く桜
 そよ風に花びら舞うてひとりぼち
 血圧自慢花が咲く待合室
 咲く日までじつと待つてる適齢期
 サクラにはコロナは効かぬ春爛漫
 キッチンに小松菜の花咲き乱れ
 弟は遅咲きなのと庇う母
 ハナの下ずいぶん長いチューリップ
 咲きもせず枯れてもない引きこもり
 桜さきたった五文字の花いかだ
 もうひと花咲いて散るなら悔いはない
 秀 深緑に薄紅の雲艶めいて
 軸 開花予想ハズレて寒い二人旅 充

三十万貰えないのを感謝する
 コロナ陰性若いナースとグータッチ
 並ばずにマスクが買えた今日の幸
 秀 一度目で数独解けた夢をみる
 軸 よろこびも悦・慶・歓・喜いろいろと
 幸男

お題「儉約」 山神春代選

儉約分超えた無駄買い百均で
 爪に火を二千万までまだ遠い
 儉約で一億残し早死す
 ケチとちやう母の口癖始末です
 儉約の中でも夢の種をまく
 ウイルスが節約せよとメッセージ
 儉約のいい出しっぺが無駄使い
 心臓の毛にケチくさいしらが染め
 儉約が身に染みついた齢なり
 孫帰り急ぎ家計の立て直し
 始末してうえ死にとういがけつぷち
 秀 ケチンボが極あつらえダンボール
 軸 地見質素表とちがう裏は派手 春代

自由吟 奥村義雄選
 昼寝して極楽と言う老い生きる
 カーナビにあれこれ言われ腹を立て
 世界中コロナの沼を抜け出せぬ
 歳時記のテンポが狂う温暖化
 幼な児の澄んだ瞳に吸いこまれ
 祝辞には嘘と世辞とがまじり合う
 不要不急ボクのことみんなそう
 思い知るウイルスに国境なしと
 こんなにもまるい私にした世間
 皮肉にもコロナで世界近くなる
 目覚めの一杯更新する命
 秀 対策がアベノマスクという不安
 軸 おしゃべりがほんとは良かった食べ歩き
 義雄

自由吟 澤山よう子選
 祝辞には嘘と世辞とがまじり合う
 皮肉にもコロナで世界近くなる
 これほどに待ちわびた春もうないね
 好きすぎて心根見え頭うつ
 足どめをこぞとばかり本の虫
 幼な児の澄んだ瞳に吸いこまれ
 桜散りコロナブルーに染まる春
 昼寝して極楽と言う老い生きる
 人間のエゴが生まれるゆるい坂
 対策がアベノマスクという不安
 永遠のゼロが連なる無意識下
 秀 ソンタクを知らず虎の尾踏んじやった
 軸 目覚めの一杯更新する命
 よう子

お題「よろこび」前田幸男選

つまらないことを喜ぶ友が好き
 明日会える思いが募り震えた日
 船旅のよろこびわずかコロナ攻め
 祝い事重なり財布むくれてる
 満面の笑みに一筋ほほぬらす
 ウイルスでよろこびのうた歌詞忘れ
 よくもった悲喜こもごもの五十年
 喜びをとんと感じぬ三・四月

英二
 哲子
 登美
 広子
 春代
 充
 哲子
 乃り子

義雄
 よう子
 登美
 英二
 哲子
 幸男
 充
 春代
 えいじ
 えいじ
 広子
 宏樹
 正清
 アキラ
 正清
 千楽
 よう子